

Young Scratch

2012 SUMMER

「人間の絶望と狂愛がどんなものか、ぼくはその全てを体験した」

『鼻のある男 イギリス女流作家怪奇小説選』

ローダ・プロートン／他著 梅田正彦／訳 933/ブ

ある夜、とても目立つ鼻を持つ男を近くで見た、と言って恐れるエリザベス。用事で出かける夫に、行かずにそばにいてと言ったが夫は出かけてしまう。夫が帰って来ると…?イギリス女性作家たちによって書かれた様々な怖い話が入っています。



「私は、あなたを傷付けたり、苦しめたりする人間は絶対に許せないのです。絶対に、絶対に……」「あんまり……と、あんたも、あの天井の化物になってしまうよ」「この坂には昔から言い伝えがあるんですよ。一人でこの坂を歩いていると、死者に会うことがあるってね」

『よもっひらさか』 今邑彩／著 913.6/イ

ミステリ&ホラー短編集。/じんわりと迫る日常の闇と恐怖を描いた短編集。

「三年三組っていうクラスは、“死”に近いところにあるの。ほかのどの学校のどのクラスよりも、ずっと」

『Another』 綾辻行人／著 913.6/ア

東京から夜見山北中三年三組に転校してきた榊原恒一は、教室の中に恐怖にも似た「違和感」を覚えた。級友たちは何に怯えているのか。三年三組の「呪い」とは何なのか。そんな中、死の連鎖が始まった。

「モンタギューおじさんの話が終わると、重苦しい沈黙が立ちこめた。時計のカチカチという音がひびいている。ぼくは汗でじっとりとした手をはなすと、ズボンの足でふいた。」

『モンタギューおじさんの怖い話』

クリス・プリーストリー作／三辺律子訳 理論社 T933/ブ

モンタギューおじさんがはなす身の毛もよだつ9つのこわいおはなし。

※シリーズの続編に『船乗りサッカーの怖い話』、『トンネルに消えた女の怖い話』もあります。

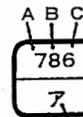
リクエストについて

読みたい本が貸出中の場合、リクエスト予約ができます。館内にある用紙、検索機、またはインターネットから申し込んでください。用意ができましたら連絡しますので、2週間以内に取りに来てくださいね！



ひんやりとした 本棚には
こわい話がいっぱい……

本の背表紙に書かれている分類番号について



- A 図書館の本は内容によって大きく10項目に分けられています。
- B 『芸術』といっても音楽や美術…色々ありますよね。Aで分類された項目がBでは細かく分けられています。
- C さらに『スポーツ』も、ジャンル別になっているのです。
- D 本を書いた人の名字(頭文字)

…ということで、興味のある分類の書架に行けば、書名が特定できなくても関連する本が集まっています。「これだ!」という本との出会いがあるかもしれません。

A	B	C
0	70	780
1	71	781
2	72	782
3	73	783
4	74	784
5	75	785
6	76	786
7	77	787
8	78	788
9	79	789
		790
		791
		792
		793
		794
		795
		796
		797
		798
		799
		800

—魔女だからね。

—魔女は昔から火炙りに決まっているからね。

—ぼら、ごらん。火柱のようだよ…

『魔女の死んだ家』

篠田真由美 / 著 T913.6/シ

美すぎるおかあさまの死の真相とは。

「そのひとつ目の黒ねこは、かた目をきらきら光らせ、ねているわたしの胸の上にのしかかってきて、熱い息をはきかけるのである。」

『鏡にうかぶ影』

ホフマン / 他著 朝倉めぐみ / 絵 T908/ホ

世界の色々な怖い話が入った名作文学集です。怖さの中の面白さも味わってみませんか？

ヒーッ、ヒーッ…

『現代変化物語 あやか(草子)』

那須正幹 / 作 タカタカマリ / 絵 T913.6/ナ

もの悲しい鳥の声、暗い夜の海、恐ろしい鬼…物の怪…幽霊。江戸の怪談を現代によりみがえらせた短編集です。どれも思い出だけでコワイ…。

「はっきり言うと、君はのこぎりで頭を切られちゃうんだよ。

そして、脳みそをちゅうちゅう吸われてしまうんだ」

『ふしぎな図書館』

村上春樹 / 文 佐々木マキ / 絵 913.6/ム

公立図書館に調べ物に来たぼく。その地下室では老人と羊男がいて、ぼくを拘束してしまう…

「とても殺す気にはなるまいと思いましたが、去年も暑さが高まるにつれ、いらいらを押さえることができませんでした。わたしは、サルをしめ殺してしまったんです。」

『ボッコちゃん』

星新一 / 著 B913.6/ホ

男は毎年、暑さに我慢できなかった。次の餌食は…

(「暑さ」より)

四人だったはず…

『くらのかみ』

小野不由美 / 著 T913.6/オ

本家の跡継ぎを決めている大人たちから離れ、本家の蔵屋敷で子どもたちが“四人ゲーム”をやっていた。でも気づいたら子どもは五人。何度数えても五だ。なぜ？座敷童子なのか？

病気で弱っているおばあちゃんのおみまいに出かけた赤ずきん。不思議な森の中でこわいオオカミと出会いました。

『赤ずきん』

大竹茂夫画 / 天沼春樹訳

T726.5/グ (YA絵本)

不思議な魅力のちょっと大人なグリム絵本。絵本。

あなたもこの 不思議な世界に浸ってみませんか？

※他にヘンゼルとグレーテル、ラプンツェルなどのシリーズもあります。

「六番目のサヨコはあたしよ」「わざわざ帰ってきたのよ。あなたの役目はもう終わったのよ」

『六番目の小夜子』

恩田陸 / 著 B913.6/オ

この高校では奇妙な儀式のために三年に一度

“サヨコ”と呼ばれる生徒が選ばれるのだが…。

ドツと見物のあいたに笑いが起こった

『中学生までに読んでおきたい日本文学⑧ こわい話』

松田哲夫 / 編 T918/マ-8

むし暑い日の午後、道端で人だかりが出来ていた。興味をわいて覗いてみると、一人の男がある告白をしていた。

(「白昼夢」より)

このお話は現在の青梅市が舞台だと言われています…

『怪談』

小泉八雲 / 著 平井呈一 / 訳 K933/コ

ふたりの木こりがひどい吹雪にあい、渡し守の小屋に避難しました。夜一人がふと目を覚ますと、見知らぬ女が寝ているもう一人に白いけむりのような息をふきかけているのです。そして「今夜見たことを誰かに話したらお前も殺してやるからね」といって去っていったのです。翌朝みると彼は死んでいました。

「これは悲劇の記憶である。

これはオーダーメイドした事件。」

『オーダーメイド殺人クラブ』

辻村深月 / 著 T913.6/ツ

中2病を自覚する少女アン。特別の存在となるために、同じクラスの昆虫系男子・徳川と共謀して事件を起こすことを決意するが…。

ジキル博士の遺言状

『ジキル博士とハイド氏』

ロバート・ルイス・スティーブンソン / 原作

リュック・ルフォール / 再話 T726.6/D (YA絵本)

なぜ人格者のジキル博士は、縁もゆかりも無い乱暴者のハイド氏に財産を譲ると書いたのか。誰も知らない二人の不気味な関係を読んで確かめてみよう。